

神戸市上下水道事業審議会
第100回 総会
提出年月日 令和4年12月27日

諮問の趣旨

令和4年12月27日

神戸市

諮 問 趣 旨

1. 諮問事項

「今後の水道事業経営」について諮問する。

2. 諮問趣旨

(1) 水道事業の経営状況及び今後の見通し

給水収益は、節水型社会の進展や人口減少に伴って、平成 12 年度をピークとして減少しており、また、近年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延による社会経済活動が大きく制限され、令和 2 年度及び 3 年度の給水収益は大幅に減少した。令和 4 年度の給水収益は回復基調にあるが、コロナ禍以前の水準までは戻っておらず、今後、徐々に「中期経営計画 2023」の水準まで回復すると見込んでいる。また、長期的にみても、給水収益の減少傾向は続いていく見込みである。

給水収益の減少に対応すべく、平成 12 年度以降、4 年ごとに経営目標を定め、人件費や物件費の削減を行い、経営改善を進めてきた。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「中期経営計画 2023」で掲げた経営改善を前倒しで行う「緊急経営改革」に取り組み、積極的に経費削減に努めているところである。

しかし、老朽化施設の更新需要増大に伴い減価償却費が増加傾向にあることに加え、物価上昇もあいまって、委託料や修繕費など物件費は増えていく見込みである。今後も DX の活用等による業務の効率化により経費の削減に努めていくが、これまでの経営改善の取り組みを踏まえると、さらなる削減は難しい状況である。

投資についても、老朽化施設の更新需要の増大に加え、労務単価の上昇や諸経费率等の改定、水道管に使用される資材価格の高騰等で建設改良費が増加傾向にある。また、本市の水道施設は、まちの発展にあわせ昭和 40 年から 50 年代にかけて整備したものが多く、今後、これら施設の老朽化による更新需要が増大していく時期に直面する。水道施設の更新は、水需要の減少にあわせた施設の統廃合やダウンサイジングを行いつつ、優先度の高い施設から進めているが、安全で良質な水を安定供給し続けるためには、今後も増大する更新需要に対しても計画的な更新を実施していく必要がある。

更新需要増大に関しては、将来世代に課題を先送りすることがないように、適切なタイミングで投資を行うとともに、経営への影響が出来る限り少なくなるように努め、持続可能な神戸水道を将来世代に引き継げるよう投資のあり方について検討が必要である。

このような中、給水収益の減少や更新投資の増大、物価高騰に伴い、保有する資金は減少していく見込みである。今後、企業債の発行による資金確保を行わなければ、近い将来に資金不足に陥る見通しもあり、企業債の発行基準など資金確保に関するあり方が課題となっている。

(2) 諮問について

上記のとおり、現在、本市の水道事業の置かれている環境、また、更新需要増大に関する投資のあり方や企業債の発行基準など資金確保の手法等の課題に対応し、次世代との負担のあり方も踏まえ、健全かつ安定した水道事業経営を確保するため、この度、本審議会に対し、「今後の水道事業経営」について諮問するものである。

神戸市上下水道事業審議会
第100回 総会
提出年月日 令和4年12月27日

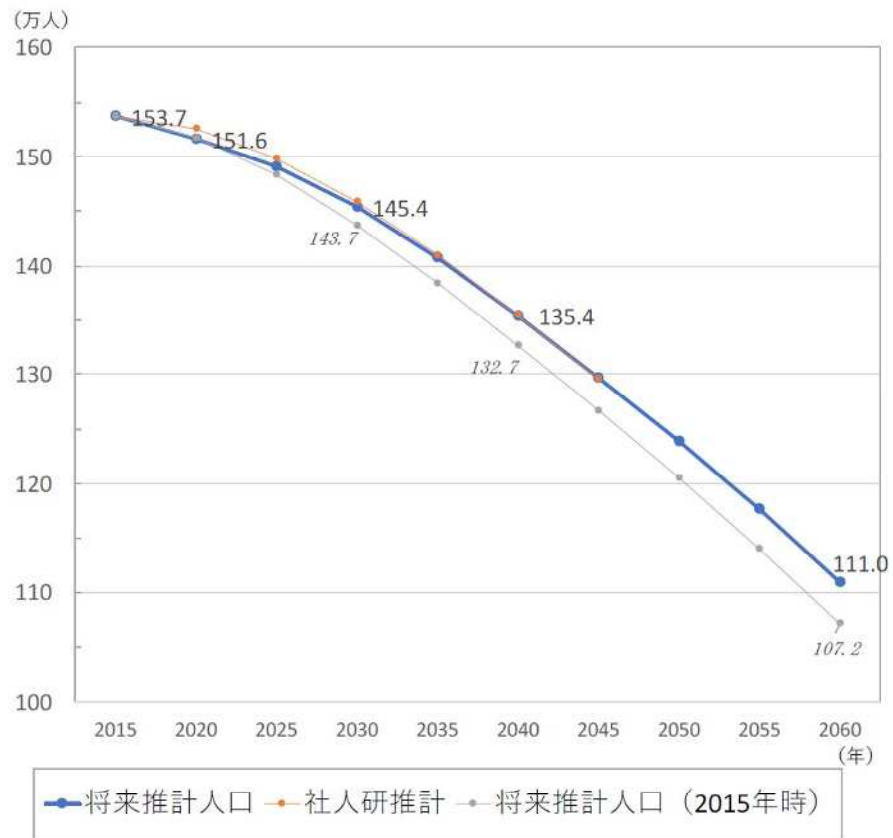
参考資料

令和4年12月27日

神戸市

参 考 資 料

1. 将来推計人口



【出典】神戸人口ビジョン〔改訂版〕

2. 給水収益の推移



3. 配水管更新需要

① 更新対象

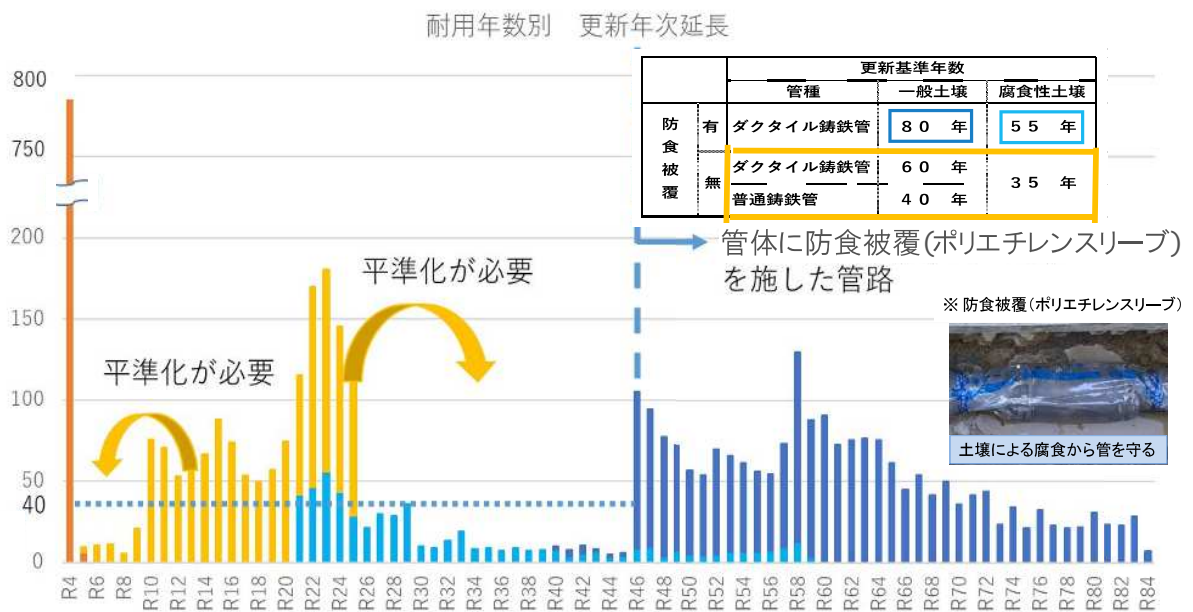
【現状】

昭和 52 年以前に布設した経年配水管を更新

【今後（現状に加えて）】

昭和 58 年以前に布設した経年配水管を更新

※昭和 58 年以前に布設した配水管は、土壌腐食対策（防食被覆）を講じていない



② 更新の方向性

【大口径管路、配水池根本管路】

事故時に断水や赤水が発生すると、使用者への影響（範囲が広く・期間が長い）が非常に大きく、優先した更新が必要

【小口径管路】

- ・ 病院や小学校など、災害時に重要となる給水拠点に至るルートを更新を優先的に実施
- ・ 現状と同程度の経年管率を維持しながら計画的な更新が必要

4. 主な経営改善の実績

